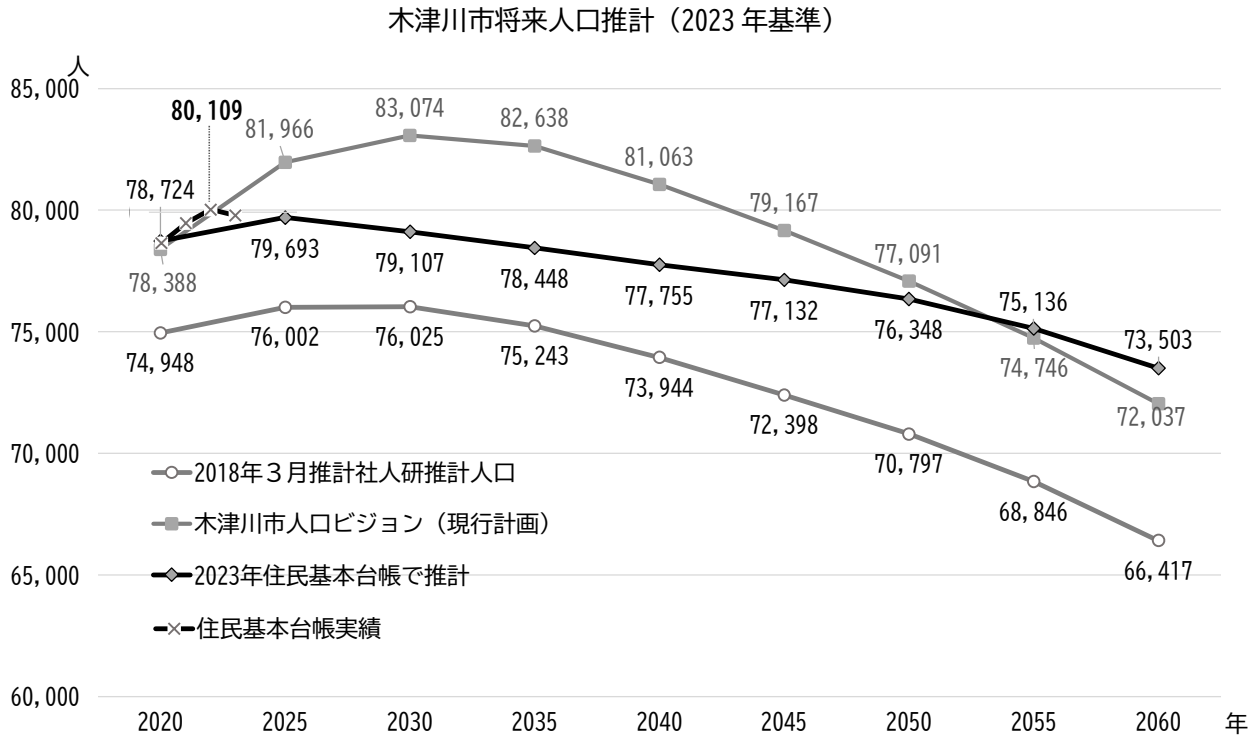


木津川市将来人口推計（現状のまま推移の場合 暫定値）

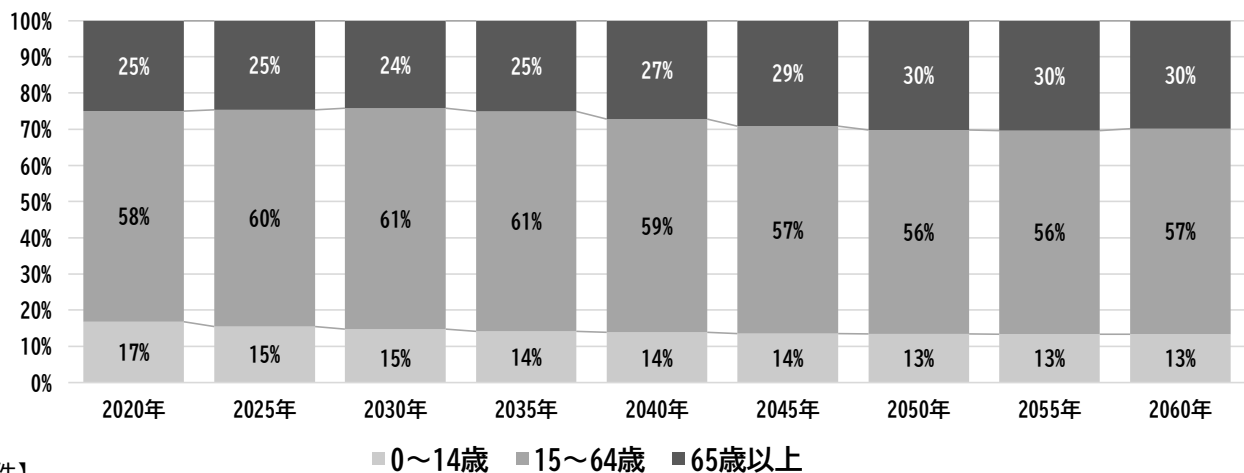
2020年以降も開発住宅地への入居が進み、2022年12月には80,109人となり、2023年4月には8万人を下回ったものの横ばい傾向にある。

今後は、緩やかに減少し、高齢化率も徐々に上昇することが予測される。



※現行計画の人口ビジョン：合計特殊出生率を2020年から2.07まで段階的に上昇させたもの。

年齢3区分の構成



【推計条件】

基準年：2023年（住民基本台帳（5月））

移動率：住民基本台帳2013年⇒2018年⇒2023年 2期間の5歳階級コーホートの移動率を算出し推計。

但し、上記期間の5,000㎡以上の住宅開発を除く（10開発が該当）。また、2022年城山台地区に大黒天物産関西RMセンターの社員寮に外国人就労者の入居が約300人あったため、特異な変化として除いている。更に、城山台が計画人口の92%まで居住しているため、他地区実績より最終を95%までとして残りのおよそ340人を2030年までに加えた。

出生率：子ども女性比0.21（2023年の実績値が一定とした。合計特殊出生率換算おおよそ1.5）

0～4歳性比：107.32（女性100に対する男性）

生存率：H30年社人研推計準拠（2020年から5年間分を2023年から5年毎にスライド）

結果の表示：既存の推計結果と比較するために、推計年度をあわせるよう今回の推計値は5年間の間を直線回帰で算出。

上記条件で設定した移動率は、25-29歳⇒30-34歳、30-34歳⇒35-39歳、40-44歳⇒45-50歳になる間に転入超過であり、その傾向が2060年まで続く推計となっている。5,000㎡未満住宅開発分が今後減少してくる場合は、この世代の転入超過の幅は弱まり、人口減少、高齢化が急速に進むことが予測される。